

SOSサイン

いかに救助要請が出来るか？
いかに救助者に速く辿り着けるか？
いかに命を救えるか？

安否確認トリアージキット (SOS要請トリアージキット)

キット内容：①緊急SOSサイン・②避難完了サイン・③自宅避難中サインの3種類
プラス50セットにSOSのぼり旗1枚(災害避難場所用)

SOSのぼり旗仕様



災害避難場所こそ、
救助要請サインが
必要と考えます。

コンパクト仕様

各ご家庭でのトリアージサイン



過去の災害を顧みても災害発生時こそ **アナログ** になります



地震



豪雨



暴風



浸水



大雪

災害発生 ⇒
停電 ⇒
インフラ停止 ⇒



ドローンでの実証実験



防災訓練時の掲出例



防災訓練時の掲出例



防災訓練時の掲出例



株式会社 協同印刷

安否確認トリアージキット

特徴

- ①トリアージができる！⇒ 災害発生時に救助確認する際、外部から一目で家屋内の状況が把握でき、救助者にて緊急家屋の判断ができ、より緊急性の高いと思われる家屋に向かうことができる。
- ②災害時こそアナログ！⇒ 万一停電になった場合、外部への連絡手段として使用可能。
- ③かんたん迅速に設置！⇒ カラビナ・ロープを使う事で、簡単に設置できる。
- ④夜間でも高認識可能！⇒ 反射板により夜間でもライトを照らす事で光が反射し、認知してもらいやすい。
- ⑤状況が一目でわかる！⇒ 自治会名・氏名を記入する事で、被災した家主の確認ができ、万一暴風で飛ばされたとしても、発見したサインを見れば、『どこの』『誰が』でその時の状況が分かる。
- ⑥ご近所での相互扶助！⇒ 自治会等での防災訓練を行うことで、住民間の防災に対する意識向上を図ることができ、ご近所同士での相互扶助意識が芽生える。

■最大の特徴が災害時のトリアージが可能である

災害が発生した場合、救助要請したくても、連絡手段が途絶える可能性が高く、固定電話はもちろん、携帯電話も繋がらない場合が考えられます。

救助隊やご近所さんが救助するかどうかの選択(トリアージ)が可能になり、【避難完了】や【自宅避難中】のサインがあればスルーでき、【SOS】のサイン又は何のサインも無い(サインが出せない)所に絞れる。つまり確認作業が1/2になり、迅速に救助を求めている家屋に向かうことができる。



災害のイメージ写真にトリアージキットを合成しました



■消防士・消防団の方に伺いました(防災訓練に参加された消防士)

Q:トリアージキットを使っての防災訓練をみて。

A:被災地では我々が被害状況を確認する場合、1軒1軒四方から確認していきます。このサインが町内全体で使用されているのであれば、いち早く救助を待っている所に行けると思います

■50年に一度の大災害(地震・水害・台風)が毎年日本各地で発生!

近年、大規模災害が多く発生しています。2024年1月1日に発生した能登半島地震、2023年に発生した台風6号による沖縄・九州地方への被害、台風7号による鳥取県で特別警報が発令、全国でも停電が多数発生しました。今後も巨大台風・50年に一度の大雨、高い確率で発生するであろう南海トラフ地震、首都直下型地震。この瞬間に大災害が発生し、被災するかも知れません。

災害が発生し、電気・電話が使用できなくなった場合、いかに救助要請するか、安全に避難したか、安全確保できているかを知らせる方法としてこの救助要請・安否確認トリアージキットがお役に立てると考えます。

震度5弱以上の地震が半年で21回発生!

(2024年1月~6月)



災害発生日	災害名及び被害者数
2024/01/01	能登半島地震、死者245、負傷1546
2022/03/16	福島県沖地震、死者3、負傷248
2021/08/11~	令和3年8月の大雨、死者13
2021/07/03	熱海市伊豆山地区土砂災害、死者27、行不1
2021/02/13	福島県沖地震、死者2、負傷186
2020/07/03~	令和2年7月豪雨、死者84、行不2
2019/10/11~	令和元年台風19号、死者99、行不3
2018/06/28~	平成30年7月豪雨、死者237、行不8
2017/07/05~	平成29年7月九州北部豪雨、死者37、行不2
2016/04/14	熊本地震(M7.3)、死者211

■安否確認トリアージキットを使って防災訓練での実証実験を実施

弊社の地元である、弥生町自治会様にこの安否確認トリアージキットを使って、防災訓練を実施していただきました。訓練終了後に住民の方々にアンケートを実施し、自治会長に安否確認トリアージキットの総合評価をしていただきました。

- ①具体的な活用方法⇒ 町内行事の際に、安否確認トリアージキットを使用して、救助者の掲出、救出訓練等を行う。
- ②災害時における有効性⇒ 限られた中で、優先順位ごとのトリアージ区分に迅速に分類できるのではと思う。
- ③自治会での実績⇒ 年2回防災訓練を実施しているが、安否確認トリアージキットを使用している防災訓練だった事もあり、141世帯中、掲出してくださった世帯は119世帯(84.4%)、参加者も30%→50%に増えた。
- ④住民の皆さんで実際に使った方の評価 自治会内での総評(実際の声)⇒ 訓練後にアンケート結果をお渡ししているのでそれを抜粋してもらえばと思います。 ※アンケート結果は右記のQRコードから確認できます。
- ⑤最後に会長としての立場から、このキットの評価⇒ まだ1回しか使用していませんが、繰り返し使用すれば万が一の時に役立つと思います。前回(2023年12月17日)は掲出訓練しかしていませんが、今後はトリアージの種類別で救助訓練などを行う予定です。簡単でわかりやすいキットだと思います、他の町内でも使用してもらいどんどん広がってほしいと思います。



弥生町自治会防災訓練

◎日 時：2023年12月17日 10:00~11:30
◎参加人数：141世帯中119世帯(参加率:84.4%)



(救助要請トリアージキット)

使用
想定

★自治会単位による防災訓練を行う事で住民同士に生じると思われる
『助け合う意識・相互扶助』がプラス!

- ①河川氾濫時における冠水した地域・上空からの確認
- ②道路寸断による救助に向かえない地域への安否確認
- ③建物倒壊する位の大地震発生後の確認
- ④土砂崩れ等、地上から救助捜索が困難な場合の上空からの確認
- ⑤豪雪により自宅から脱出できなくなった場合の安否確認
- ⑥万一、不審者による自宅から脱出できない場合の救助要請



周辺の自治会さんとの 合同使用のオススメ!

個人で使うより、自治会全戸で使ってください!
この安否確認トリアージキットは多くの方がご利用いただく事で、より防災効果が発揮できると考えられます。
「このサインは救助要請しているんだ!」が住民皆さんの共通意識になり、まち全体・広い範囲でのご使用を推奨しております。周辺の自治会の方にもお声掛けいただき、お申込みください。



避難場所 避難場所こそ! 救助要請サイン

災害により道路が分断され、陸の孤島となり、連絡不通となり得る可能性があります。
外部への連絡方法に、このサインを上空から見えるように掲出する事で、ヘリコプターやドローンから確認でき、救助要請が可能となります。

SOSのぼり旗

サイズ(のぼり部分)
縦180cm 横45cm
素材
ボンジ(旗)
付属品
カラビナ、ロープ3m
パイプ(塩ビ)

高反射シール

上空30mからドローン撮影



高反射シール → 自治会名 入れ部分

セット内容

下記内容を透明ケースに収納しています

【救助要請時に】

【避難完了時に】

【自宅待機中に】

【印刷物2枚】

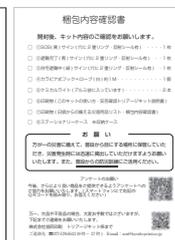
【ケミカルライト】



【ケース】



- 材質: ユボ(耐水加工)
- サイズ: 横210mm 縦297mm
- 付属品: カラビナ付ロープ(1) 各サインに2重リング 印刷物(2枚)・ケース ケミカルライト(2本)



ただく事により、防災意識を高め、一層の安全確保が期待できます。

助けられる命を・・・
最短時間で救助に向かう
ご近所同士で助け合う
相互扶助の意識向上を推進



救助要請・安否確認トリアージキット

特許取得商品 特許第 7225518 号



株式会社 協同印刷

〒520-0115 滋賀県大津市弥生町15-15

TEL. 077-578-6432(代)

FAX. 077-578-5817

営業担当／

E-mail : sos@kyodo-print.co.jp